

第27期社会教育委員会議協議結果報告

生涯学習をより身近なものに ～学習情報の発信手法に関する提案～

第27期（平成21年6月1日～平成23年5月31日） 富士見市社会教育委員

No.	氏名	所属・役職
1	柴田 修一 平成21年10月26日まで	富士見市立みずほ台小学校長
2	富澤 明 平成22年1月1日から 平成23年3月31日まで	富士見市立鶴瀬小学校長
3	岸 信次	南畑公民館利用者の会
4	中澤 佳珠代	ちゃんとちゃんと公園をつくる会
5	羽石 貴裕	富士見市地域子ども教室運営委員会
6	前田 憲之	富士見市コミュニティ協議会
7	川崎 仁	水谷東2丁目町会
8	高野 昂子	富士見市文化協会
9	西山 ひろみ	富士見市青少年育成市民会議
10	吉崎 徹	公募者
11	森本 扶	埼玉大学非常勤講師

目 次

1. 第27期の研究協議にあたって	1
2. 研究協議の進め方	1
3. 協議の期日及び概要	2
4. グループ協議内容（グループレポート）		
(1) Aグループ「市民が使いやすい情報とはどういう形か」	3
(2) Bグループ「生涯学習をより身近なものにするために ～情報に関心のない人をどう振り向かせるか」	5
5. まとめ	7

1. 第27期の研究協議にあたって

第27期（平成21年6月～平成23年5月）の社会教育委員会議は、任期2年で、16回の定例会を開催しました。前半の定例会においては、第26期の協議結果報告「社会教育における市民と行政の協働」をはじめ、「子どもの居場所づくり」「生涯学習推進基本計画」などについての意見交換を行ってきました。そして、後半では、研究協議のテーマを定め、提案という形でのまとめを行ってきました。

今期の研究協議に向けては、前半での意見交換において、次のような議論が行われました。

- ① 第26期においては、『社会教育における市民と行政の協働』をテーマにまとめましたが、その中で、地域活動自体が『縁遠い活動』、『負担を伴う活動』となっていることが浮き彫りになったことを確認しました。
- ② したがって、市民が能動的に社会教育活動に参加できるような機会をつくり、各世代のつながりを回復させるためには、市民、施設、行政をつなぐコーディネーター機能を充実させる必要があるという一定の結論に至りました。
- ③ このような背景から、第27期では、このコーディネーター機能の具体化として、情報収集・発信システムの整備に注目する必要があるのではないかという意見が出されました。
- ④ さらに、この整備にあたっては、一般市民の視点に立った情報発信システムを構築することが重要であり、その際には、情報を広く効率的・合理的に行き渡らせる方法を検討するにとどまらず、情報発信自体を学習活動としてとらえ、情報を媒体として人々がつながり、まちがつながっていくという発想が大切であると考えました。

以上のことから、今期のテーマは「生涯学習を身近なものに～学習情報の発信手法に関する提案」に決定し、研究協議の結果をまとめてきました。

2. 研究協議の進め方

今期の社会教育委員会議における研究協議の内容は、検討を重ねた結果、「生涯学習を身近なものに～学習情報の発信手法に関する提案」をメインテーマとすることに決定しました。

今回の協議を進めるにあたっては、まずワークショップ形式で問題点・課題を抽出しました。その上で、各委員を2グループに分け、それぞれがテーマを定め、研究をすすめてきました。また、協議の中で、多くの具体的事例も提案されてきたことから、学習情報発信の具体的状況の把握・検証のため、近隣市・区の調査も行いました。

<調査した市・区>

豊島区、和光市、朝霞市、新座市、志木市、ふじみ野市、川越市、坂戸市、吉川市
戸田市、国分寺市、国立市

3. 協議の期日及び概要

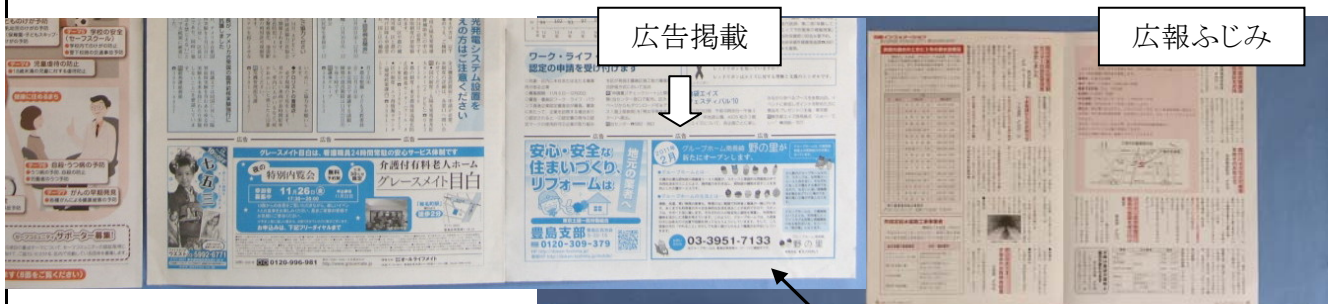
回	期 日	場 所	協議の概要
1	平成21年6月6日	教育委員会会議室	・第27期の検討課題及びスケジュール
2	平成21年9月2日	鶴瀬西交流センター一和室	・第26期社会教育委員会協議結果報告についての意見交換及び社会教育関係団体に対する補助金交付について
3	平成21年10月3日	教育委員会会議室	・子どもの居場所づくりについての意見交換
4	平成21年12月5日	教育委員会会議室	・生涯学習推進基本計画等についての意見交換
5	平成22年2月6日	教育委員会会議室	・生涯学習推進基本計画の見直しについての意見のまとめ
6	平成22年3月6日	教育委員会会議室	・学習情報のあり方について及び平成22年度予算（教育費）概要と社会教育関係団体に対する補助金交付について
7	平成22年4月3日	教育委員会会議室	学習情報のあり方、特に紙媒体による学習情報提供について
8	平成22年6月11日	鶴瀬公民館第1集会室	学習情報のあり方、特に紙媒体による学習情報提供について
9	平成22年7月3日	教育委員会会議室 中央図書館視聴覚ホール	学習情報のあり方について（グループ討議）
10	平成22年9月4日	教育委員会会議室	① 習志野市秋津コミュニティにおける「学社融合」の実際について ② 学習情報のあり方について（グループ討議）
11	平成22年10月2日	ふじみ野交流センター集会室	学習情報のあり方、特に富士見市の情報発信の現状と今後について
12	平成22年11月8日	鶴瀬西交流センター一会議室	学習情報のあり方について（グループ討議）
13	平成23年1月18日	鶴瀬西交流センター一会議室	学習情報のあり方について（研究協議のまとめについて）
14	平成23年3月5日	教育委員会会議室	研究協議のまとめについて
15	平成23年4月2日	教育委員会会議室	研究協議のまとめについて
16	平成23年5月7日	教育委員会会議室	研究協議のまとめ・報告について

※この研究協議のまとめについては、教育委員会に報告するとともに、市ホームページに掲載します。

4. グループ協議のまとめ(グループレポート)

(1)Aグループ「市民が使いやすい情報とはどういう形か」

狙い	広い年齢層に対する 信頼性の高い・使いやすい 情報発信		
理由	情報に関心の薄い人達が、広報・行政についての関心を持つ形を作りたい		
提案	項目	利用者から見た現状の問題点	改善提案
	① 広報・社会教育資料	<p>→ * 字数・字サイズ・配列の工夫が不十分。 (字が多く 小さく読む気がしない) 内容が複雑で、硬く判りづらい</p> <p>* 専門用語が多く堅苦しい。 読む人の立場に立った資料作りへの配慮が足りない。ゆえに多くの人の、社会教育への関心が薄れる。</p>	<p>* 目的を分割し要約した広報を作る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>行政からのお知らせ</u> 2. 市内行事・活動紹介 等 <p>* 先行している他地域の良い事例を 読む人の立場に立って研究・活用する。 <u>豊島区の『広報としま』11月発行、</u> を『広報ふじみ』と比較添付 写真参照</p> <p>* 専門用語を、わかりやすい文章・内容に改める。</p> <p>* 詳細情報はQRコードを活用し紹介する。</p> <p>* 『ふじみ野広報』は目次対応インデックス付き</p>
	② 公報の発行回数	<p>→ * 担当者の数不足。(現状2名+パート職員) 担当者はてんでこ無い状態。 発行数1回/月 情報が、ぎゅうぎゅう詰め 市民が欲しい情報がたくさん盛込まれており、 実際に欲しい項目が探しにくい。</p>	<p>* 担当者 3名+編集経験者(専門家)1名</p> <p>* 情報発信担当部門の一元化 <u>市民への情報発信統括部門新設</u></p> <p>* 発行数 2回/月 ① ③項との連携 <u>広告収入で広報発行コスト削減を図る</u></p> <p>: 上記は必須事項 <u>豊島区の『広報としま』11月発行、</u> 広告掲載部分 写真参照</p> <p>* 他の地域広報を調査・良い所をいかす。</p>



- ・『広報ふじみ』は、月1回発行なので文字が小さく情報量が多くて、欲しい情報を探すのが大変。比べて、『広報としま』は月3回の発行で情報が分けられ見やすい。
写真右側
- ・『広報としま』は一部に、広告が掲載され、その広告収入によって、広報製作コストの一部を賄っている。
写真上側
- ・『広報としま』は高齢者用に文字を拡大した物も用意されて親切。



項目	利用者から見た現状の問題点	改善提案
<p>提案</p> <p>③ 携帯電話・インターネットの活用</p>	<p>→ *現状:内容が粗末・検索し難さが際立つ。 会議録は発言そのままが列記され、要約内容が無く、理解できない。 読む人の立場に立った情報整理がされていない。</p> <p>*利用者からの質問に対する返事が遅く、返事が紋切り型のことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答の前に、責任区で内容確認していないのではだろうか? ・利用者アンケートのチェック、活用は十分なのか? 	<p>* 情報通信専門家の知恵をいかす。</p> <p>* 先行している他地域の良い事例を研究・活用する。</p> <p>* 利用者の声、アンケートを確認して、使い良い情報形態に変えてゆく。 (若者の知恵生かし 取り込む) 例えば:”キラリ”の予約は携帯・ネットから可能にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット活用で多くの手続きの、利便性がアップする。 ・メルマガの内容充実で若者の関心度アップを図る
<p>④ パンフレット類の分類表示</p>	<p>→ *パンフレットの用紙サイズ・書式・発行責任表示などが発行部署ごとに異なって、市民は情報が探し難い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収納場所不明確、保管管理担当部門不明確。 ・古い資料と新しい資料が混ざり、テーマ分類も出来ていない。 ・興味を持ってもらえない。 	<p>* 発行全パンフレットの用紙サイズ・書式統一・発行期日、責任者の明記(さがしやすさ重視)</p> <p>* パンフレットの収納場所、形態統一・見やすい分類表示</p> <p><u>和光市役所のパンフレット資料管理</u>をすぐに参考にしたい。 写真参照</p> <p>* 古いパンフレット更新の管理体制確立(現在この組織が有るならば全面的に利用者の目線で、作業方法の見直し)</p>



和光市の資料管理状況 写真参照

- ・場所が一箇所にまとまっている。
 - ・資料の書式統一がなされている。
 - ・棚ごとに資料のテーマがインデックスで表示されている。
- 市民の欲しい情報が、大変に探しやすく親切。

(2) Bグループ

「生涯学習をより身近なものにするため～情報に関心のない人をどう振り向かせるか」

※駅を生涯学習の拠点として活用するという点をポイントにする。

理由としては、昼夜人口差比率が埼玉県で最も高い富士見市は、サラリーマン・OLや若者を中心に、日々の駅利用率が非常に高い。また、市内駅数が多い（3駅）という特徴をあわせ持つ。したがって、生涯学習の情報拠点としての「駅」の有用性は高いと考えられる。特に、生涯学習活動に関心がない、または活動自体を知らない市民層を振り向かせるためには、「駅」を生涯学習の拠点のひとつとして機能させることの意味は決して小さくないであろう。

以上のことから、いくつか提案する。

【提案】

■学習情報提供

【映像】

普段、学習活動を行っていない市民への学習情報を届ける。

学習情報提供システムの端末を、学習機関に設置するだけではなく、

3駅、商店街、銀行、病院、等の生活関連施設にも設置する。

○紙面では伝えにくい情報を表す。

○生きた情報を！！ 「いつでも見れる。」 「わかりやすい」 「見やすい」

・テロップ式電光掲示板

・映像モニター



【紙媒体】

市民の身近な学習情報収集の方法は、「広報ふじみ」。

文字情報だけでなく、挿絵や漫画等をうまく活用する等、若者から高齢者まで親しみをもって読まれる広報誌づくりを行う。

広報誌以外の新しい紙媒体や広告ツールの開発

○誰にでも目に留まる。

○地域の見え方が変わる。

・見どころマップ

⇒地域を知るツール

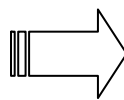
・特産品マップ

⇒商工農業活性化

・子ども遊びマップ

⇒安全な居場所

・○○○（ニーズにあわせた）マップ



- ・電車やバスなどの中吊り広告式お知らせ

⇒広報のダイジェスト



電車やバスなどの広告例



中吊り【ダイジェスト版】

- ・フリーペーパー⇒クーポンや地元密着の情報発信
- ・電車やバスなどの中吊り広告

■学習機会整備

【出張所】

- 生涯学習の窓口設置
- 生涯学習施設・公民館の予約手続など
- 早朝・夜間、休日利用の拡大

【アンテナショップ】(まちのえき)

- 地元PR
 - ・特産品の販売
 - ・生涯学習活動の展示
 - ・子どもの発表の場



戸田市にある、コミュニティカフェ

まちのえき『かめや』

【周辺のたまり場 (づくりなど)】

- 商店街の空き店舗の活用、コンビニエンスストアなどの活用

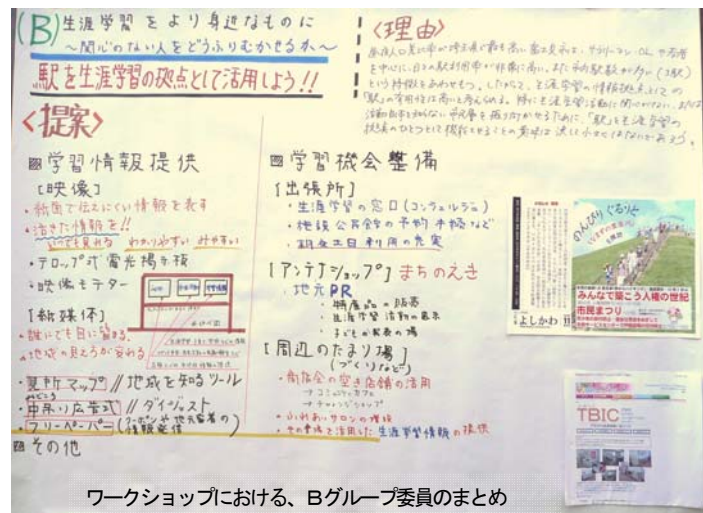
→コミュニティカフェ

※コミュニティカフェとは、地域社会の中で「たまり場」「居場所」になっているところの総称です。

→チャレンジショップ

※商店街の活性化を目的とした空き店舗対策として、商工会、商店組合等が空き店舗の一部を店舗開業希望者に、期間限定で格安に賃貸する創業支援事業

- ふれあいサロンの増設、生涯学習情報の提供



ワークショップにおける、Bグループ委員のまとめ

タイムリーな生涯学習情報の「さわり」、「見出し」、「キャッチコピー」などを用いた『中吊り広告』を掲出することによって、それを目にする市民の関心を引き寄せる中吊り広告方式で、広報のダイジェスト版を作成し、情報に対する動機付けを行う。

駅に地域の案内図があるが、そこには生活者に視点での公園や施設、散歩道などが掲載されていないので、子育てサークルなどの協力も得て、作成してはどうか。市域にこだわらず、使いやすいものを。

5. まとめ

第27期社会教育委員会議では、「生涯学習を身近なものに～学習情報の発信手法に関する提案」のテーマを設定し、学習情報を広く効率的・合理的に行き渡らせる方法を検討するにとどまらず、情報収集・発信自体を学習活動としてとらえ、情報を媒体として人々がつながり、まちがつながっていくという発想のもと、一般市民の視点に立った情報発信システムを構築するための具体的提案にかかわる議論を行ってきました。その結果、現状の学習情報整備のしくみにおける多くの課題が浮き彫りになったと同時に、今後の情報発信システムの構築に向けた具体的な提案が多くなされ、近隣市町の取り組みとの比較検証もあいまって、総じて「生涯学習を身近なものに」するために、学習情報発信システムを抜本的に見直していくことは大きな意味をもつことが明らかになりました。

以下、協議の成果の要点を確認します。

◎学習情報に身近な分かりやすさとメリットを！

問題意識が最も集中したのは、学習情報を市民目線で分かりやすくすること、そして、市民にとってメリットを感じさせる情報発信の方法を開拓すること、でした。学習活動に対する関心の格差を埋めるためには、既存の紙媒体、電子媒体の資料をより分かりやすく改善することはもとより、そもそも情報媒体に接することの少ない人々への働きかけを工夫することが何より必要です。また、技能や知識、そして意欲をもっていても、なかなか活動に参加するまでにはいかない市民も多くいます。参加することにメリットがある、ということを具体的にアピールできるような情報発信の仕組みが求められます。

◎民間の力を情報発信に生かす！

上記のことは、情報発信を行政や町会だけに担ってもらう仕組みでは実現できない、ということも共通した問題意識でした。したがって、広報や情報通信に関する専門的な市民や企業の力を活用することや、情報発信自体を市民の学習活動として発展させることで、コストをおさえつつ、単なる伝達や案内にとどまらないより多様で柔軟な情報発信の形が追求していくことが求められます。

◎情報交換の場づくりを！

情報を真に流通させるには、情報交換の拠点となるような場づくりが必要です。昔、集会所の囲炉裏が情報交換の場であったように、世代をこえて多くの人が構えずに集える場づくりが、情報の流通をスムーズにしていくことにつながります。出張所の設置や利用時間の拡大など、駅とその周辺を地域情報の集積・発信拠点としてデザインしていくことは、富士見市にとってとても有益でしょう。

以上が第27期社会教育委員会議の協議成果です。限られた時間のなかで活発な議論が交わされ内容の濃い成果が得られましたが、以上の提案を具体化する仕組み（人材・予算・ノウハウなど）の検証が不十分であることなど、課題も多く残されました。そのことをご理解いただいた上でお読みいただきたいと思います。

私たち、社会教育委員会議では、今回の報告にあります学習情報・発信のいくつかの提案

の具体化をすすめることで「生涯学習を身近なものに」していけると考えておりますので、ぜひともお読みいただくようお願い申し上げます。また、この報告が今後、社会教育施策や活動をすすめていく際の一助になれば幸いと願い、まとめいたします。